

1. 教育の責任

学部教育では母性看護学、大学院教育では助産学を担っています。母性看護学では、女性の生涯を通じた健康とそのケアについて学びます。さらに、助産学ではより専門的な知識をもって分娩介助を含む周産期の管理、ケアを修得できるよう、学びを進めます。

2. 教育の理念

家族の姿が変化・多様化する中で、生まれる子どもが健やかに成長できるように看護師、助産師に求められる役割はますます大きくなっています。新たな命と出会う出産の場がより安全で快適であることは、その後の母子の健康、家族の健康につながります。様々な背景をもつ対象の個性を尊重し、安全で安心なケアを提供できる看護師、助産師の教育を目指します。

3. 教育の方法

<教育の目的と目標>

修得した知識で状況を理解できることが、学ぶ楽しさ、自主的な学びにつながります。そのため、講義で知識を提供し、演習で知識の活用方法を教授します。学生の興味関心を引き出せるように、自らの臨床経験、教育経験も活かして理解を促します。学生は知識を教授されるだけでなく、学生自身が自己の課題を明確にし、自ら学びを深められることが大切だと考えるため、その意欲を引き出せる教育を目標にしています。

<教育実践>

学生自身が探求心をもって、自律的に知識や技術を学び続けられることを目指して講義、演習、実習指導を行っています。講義では、講義資料だけでなく教科書を使用して知識を提供し、基本を押さえます。教科書に準じることで、技術演習や実習のなかで、教科書にもどって知識を定着させることが、学生自身でできるようになります。課題の内容は、課題に取り組むことで、その後続く演習や実習がより効果的で充実したものになるように選定しています。また、臨地実習の場には、教材となる事例や場面が多くあります。それらを活かして、机上の学びを深められるような実習指導を目指しています。

4. 教育の成果

課題への取り組みでは、学生の主体的な姿勢が見られました。課題を提出することが目標にならず、実習にむけて使える知識、技術になるように自己学習を進めることができていました。

5. 改善への努力と今後の目標

講義で知識を修得し、実習で実践につなげられるように、また、実践を通して理解を深め、知識が定着することを目標に教授方法を検討します。また、2024年度は、助産実践科学分野の1期生が助産師国家試験に臨むため、全員の合格を目指してサポートしていきます。

【添付資料】

シラバス、講義資料、課題レポート